

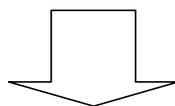
# 小中連携教育



## 小中連携教育の必要性

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで、最も大きな時期であるとともに、精神的に不安定な時期でもあります。そこで、小学校から中学校の間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、小中学校が互いに連携をとった教育を進めることが重要となります。

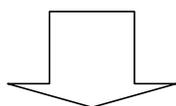
小中連携教育を推進することで、「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を一層はぐくむことができます。



## 小中連携教育を進めるために

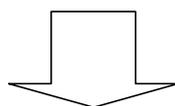
児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し合い、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが出発点となります。また、児童生徒が共に活動し、体験を共有する機会を意図的、計画的につくることにより、児童生徒の人間関係づくりを促すことが大切です。そして、それぞれの学校の現状を生かした具体的な方法によって連携し、9年間を見通した教育課程を実践可能な範囲で編成することが望まれます。

## 小中連携教育の方策 三つの視点



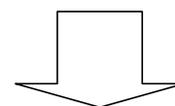
### 学ぶ意欲を高める交流

- ・ 中学校教師による出前授業
- ・ 小、中合同授業
- ・ 中学生の作品等の学習成果の活用
- ・ 職員相互の授業参観による指導法の工夫
- ・ 学力テスト等の分析と改善についての協議



### 豊かな心をはぐくむ交流

- ・ 小・中合同授業
- ・ 母校ボランティア訪問
- ・ 手紙による交流
- ・ 小・中連携教育の広報
- ・ 合同ボランティア（地区清掃活動、あいさつ運動、施設訪問）
- ・ 福祉体験活動



### 夢のある進路を実現する交流

- ・ 先生との出会い
- ・ 先輩との出会い
- ・ 同級生との出会い  
（小・小合同授業、里山米作り活動、学校説明会、部活動見学会）
- ・ 吹奏楽部の出前演奏会
- ・ 小学校保護者へ授業公開
- ・ 中学校だよりの掲示

## 小中連携教育の実践

守谷市立大井沢小学校 担当 関根京子

### 1 はじめに

「中1ギャップ」が叫ばれて久しい。小学校から中学校への進学時に、不登校の割合はぐっと増えるのは今も変わっていない。その大きな要因を、学習のつまずき、教師の指導方法の違いと考えれば、小学校、中学校の指導を「接続」という視点で見直すことが必要である。「9年間で子どもを育てる」小・中学校の教師がこの思いを共有して接続の円滑化に取り組む必要がある。

御所ヶ丘中学校区（御所ヶ丘中学校、御所ヶ丘小学校、松前台小学校、大井沢小学校）では、平成15年度より小学校と中学校の交流を進めてきた。平成17年度、18年度には「共に進める小中連携教育推進事業」の指定を受け、小学校と中学校の連携を図った教育を実践してきた。指定以降も実践を重ね、今年度も小中連携教育を継続的に行っている。中学校と小学校の連携をより深め、「夢と希望をもつ子どもたちを育てる」という目標の共有化を図って本実践に取り組んでいる。その実践例を以下に述べる。

### 2 実践（御所ヶ丘中学校との交流・3小学校との交流）

#### (1) 中学校の先生による出前授業

##### ア 算数…7月（6年）

6年生3クラスを対象に「コマを作ろう」という学習材で重心を学んだ。話をよく聞き楽しく学ぶことができた。全体学習から個人学習への授業形態に子どもたちも引き込まれていた。



##### イ 外国語活動…12月（6年）

6年生3クラスを対象に、外国語活動の授業を受けた。まずは、中学校の様子を聞いた。その後、「アルファベット探し」をした。皆夢中になって楽しく学んでいた。「中学校で本格的に学ぶのがとても楽しみになった。」と話していた。



#### (2) 母校ボランティア（里帰りの会）…11月

卒業生が母校に戻って、下級生と交流を図るという実践を重ねている。今年度も中学生と1，2年生，6年生との交流を図った。

1，2年生とは、学習ボランティアを実施した。1年生には算数の問題の解き方を教えたり，2年生にはかけ算九九の検定をしたりした。どちらもほほえましい光景がみられた。終わった後，1，2年生は「緊張したけれど，いつもよりがんばれた。」「検定シールをたくさんもらってうれしかった。」など，連携が好評であったことが伺えた。

6年生とは、「一緒に清掃しよう」「中学校の話聞こう」と二つの企画を立て実行した。そして，最後に中学校の先生より「伝統について」の話聞いた。皆，真剣な面持ちでじっくりと聞く姿が印象的であった。小学生も中学生も少し緊張した面持ちであったが，共に一生懸命に取り組んでいた。

「中学生にお礼がしたい」との願いから，「絆」と題した手紙を一枚の模造紙にまとめて送った。



(3) 入学説明会・部活動見学

本年度は、インフルエンザの影響で、保護者のみの実施となった。そのため、児童には、パンフレットと説明用のパワーポイントをいただいた。6年生の学年集会で、「中学校入学にあたって」の説明会を実施し、「入学説明会」の代わりとした。「部活動見学」ができなかったことは残念な様子であったが、資料等を見て中学校へ入学する意欲と安心感が徐々にではあるが出てきた様子が伺えた。

(4) 里山における3校連携の米作り

毎年、御所ヶ丘小学校、松前台小学校、大井沢小学校の5年生が合同で、立沢里山での米作り体験を行っている。立沢里山の方々の協力により、田植えや稲刈りの仕方を丁寧に教えていただいた。田植えや稲刈りが初体験の子どもたちも多かったが、立沢里山の方々の手助けにより、楽しく活動することができた。

収穫したお米は、家庭科の時間に炊いていただいた。子どもたちは、一粒一粒に込められたありがたさを身をもって感じていた。

3 考察

- (1) 出前授業を受けたり中学生と交流することによって、中学生を身近に感じることができ、中学校への一歩を踏み出した様子が見えられた。
- (2) 「中1ギャップ」が懸念されるなか、意識的に中学校や他の小学校との交流をもつことで、子どもたちは、小学校から中学校にスムーズに入学し、学べる基盤ができた。
- (3) 6年生と共に、1年生、2年生も小中連携事業に参加できたことは、大変有意義であった。低学年のうちから中学生に親しみをもって接することができていた。また、中学生も、1、2年生との活動をとらえて、自分たちの成長過程を知ることができた。

4 課題

- (1) 「9年間で子どもを育てる」という意識をもち、より計画的な小中連携を図っていく必要性を感じる。
- (2) 東日本大震災の教訓を生かし、今までの実践とともに安全教育においても、連携を図っていきたい。

## 小中連携教育の実践

守谷市立大野小学校 担当 岡崎 芳文

### 1 はじめに

小学校においては特に問題なく生活していた子どもたちが、中学校において不登校になったり、問題行動を起こすなどの中1ギャップが話題となることが現在も続いている。生活環境が大きく変化する現代社会において、家庭や地域の教育力の低下や子どもたちの実態に対応できなくなっている学校等、子どもたちの健全育成に対応しきれていない状況である。このような中で子どもたちに生きる力の育成を目指すために、これまで以上に同じ地域の学校同士の連携が必要となってきた。

本校の子どもたちは、地域・家庭で穏やかに育てられ、明るく素直である。その反面、自分の考えや気持ちを友達や先生に伝えることが苦手である。教師に指示されたことは素直に行うが、自ら課題を見つけ解決しようとする意欲が低いなどの課題がある。積極的に他者や集団とかかわろうとする意識や、自分のよさを生かして集団に貢献しようとする意識を実践力にまで高めるために、集団の中で自分のよさを生かしながら役割を果たしていく場面を更に充実させていく必要がある。そのためには、集団活動の中で子どもたちが生き生きとした活動を展開できるような児童生徒の交流や教師の連携は重要であると考え。

### 2 実践

月 日	内 容
月例の教育課程研修会にて	小中連携会議
6月13日(月)	守谷中学校区小中連絡協議会 ・中学1年の元担任による中学校の授業参観
7月12日(火)	守谷中学校見学会 ・授業と部活動の見学
9月21日(水)	守谷中計画訪問 ・小学校教員が中学校の授業参観
10月19日(水)	大野小計画訪問 ・中学校教員が小学校の授業参観
11月 3日(木) 文化の日	守谷中学校吹奏楽部による出前演奏 ・収穫祭の中でミニコンサートを実施
1月20日(金)	守谷中学校24年度入学予定者説明会 ・児童、保護者対象の説明会、部活動見学 ・メディア講習会
2月16日(木)	生徒指導研修会 ・生徒指導上の情報交換
3月23日(金)	平成24年度新入生引継事務 ・新入生についての事務引き継ぎ

#### (1) 守谷中学校見学会・新入生説明会

今年度、6年生が中学校へ行き、中学生の授業を参観したり、部活動を見学したりする取り組みを子どもたちだけの見学会と新入生保護者説明会の2回行った。事後の感想では、実際に中学校の授業や部活動に触れ、中学校生活への興味・関心が高くなるとともに、進

学への不安が少なくなった児童が多く見られた。教科担任による専門的な授業，本格的な部活動等，中学校進学への期待を大きくすることができた。

#### (2) 小中相互授業参観

小中連絡協議会及び守谷中，大野小の市計画訪問の際の授業を相互に参観した。小学校6年の時の担任が中学1年の授業の様子を参観し，子どもたちの様子を見守ることは，子どもたちの成長を見守る上で大切な機会となった。また，それぞれの計画訪問の際に授業を参観し合うことにより，指導内容のつながりや，指導方法に一貫性が必要であることを確認する場として有効であった。

#### (3) 守谷中学校吹奏楽部によるコンサート

収穫祭において，児童の発表の後に守谷中学校の吹奏楽部によるコンサートを行っていただいた。小学校では扱っていない様々な種類の楽器を使った演奏に触れ，その素晴らしさに感動するとともに，制服姿で整然としかも活発に活動する先輩達を見て，子どもたちは中学生への憧れを募らせていた。小学生向けに曲目を選んだり，会場を巻き込んだ演出を工夫していただいたことで，聴衆（児童・保護者）はとても楽しい時間を過ごすことができた。自分でもあのような演奏をしてみたいと感じた子どもは多かった。

#### (4) 「家庭学習の手引き」の活用

平成23年度は，平成22年度に小中連携事業で作成した「家庭学習の手引き」の本格的な活用の年となった。保護者会において「家庭学習の手引き」の活用について説明をした上で，全児童に配付した。子どもたちの家庭学習推進に大変役立ち，積極的に家庭学習に取り組む子どもが増えてきている。学習の仕方についても，発達段階に応じた指導ができるようになった。



守谷中学校見学会（7 / 1 2）



守谷中学校吹奏楽部による演奏（1 1 / 3）

### 3 考察

中学校の授業を見学したり，部活動で頑張っている先輩の姿を見たりすることで，進学への不安を軽減し，さらに子どもたちは「中学校の学習も楽しそうだ。」，「中学校に進学したらこんな部活に入りたい。」と進学を楽しみにするようになった。

また，教師同士がお互いの授業を参観し合うことで，小中での授業の進め方を確認することができ，それぞれの立場において学習習慣の一貫した指導の必要性を感じ，何らかの方策が必要であることを認識することができた。

### 4 課題として残されていること

子どもたちは一人の人間として完成させるために，学校や指導者が替わろうとも一貫した指導が必要である。小中学校の生活の違いを知らせ，スムーズに生活できるようにするだけでなく，指導内容，方法にもつながりが必要である。小学校，中学校の指導内容を更に検討し，お互いにその内容を視野に入れながら指導できるような場の設定を工夫していくことがこれからの課題として残されている。

## 小中連携教育の実践

守谷市立高野小学校 担当 中村 正行

### 1 はじめに

23年度における本校の進学状況は、数名の児童が私立中への進学が内定しており、大半の児童は「けやき台中学校」へと進学する。小中連携教育では、児童と生徒が直に交流できる場を設定し、具体的な活動を通して中学校の様子が分かるように配慮している。これは、卒業を控えた6学年児童が、中学校生活への不安や悩みを軽減するためでもある。これからも児童一人ひとりが、大きな夢と希望を持って卒業・進学ができるように小中連携の取り組みをさらに強化し、充実させていきたい。

### 2 実践活動

#### (1) 小中合同あいさつ運動 ～マナーアップ推進事業から～

	第1回小中合同あいさつ運動	第2回小中合同あいさつ運動
日時	6月20日(月) 朝 7:50～8:10	10月31日(月) 朝 7:50～8:10
場所	高野小プール側の門付近	
参加者	中学校：生徒会役員，けやき台中職員 小学校：本校々長，生徒指導主事，登校班担当，児童会運営委員，ボランティア委員	
内容	中学生と共に登校時に校門付近であいさつ運動を行い，全児童へ積極的に声かけを行う。	



#### (2) けやき台中学校区小・中連絡会（生徒指導中学校区会を兼ねる）

- ア 日時 6月27日(月) 13時30分  
イ 内容 ・授業参観 及び 連絡会  
・参加者：旧6年担任

#### (3) 母校訪問ボランティア交流活動

- ア 日時 11月17日(木) 5・6校時  
イ 内容 ①卒業の中学校1年生が母校である本校を訪れ，6年生と一緒に「ボランティア清掃」を行う。  
・校舎及び体育館周り，運動場，プール周りの落ち葉掃き  
・体育館・児童昇降口の清掃



②卒業生の「中学校生活を語る」で、  
中学校生活の概略と部活動の紹介  
をグループ発表してもらい、相互  
の交流と親睦を図る。



(4) けやき台中学校・吹奏楽部の出前演奏会

- ア 日時 7月7日(木) 5・6校時  
イ 会場 体育館  
ウ 内容 ・中学生吹奏楽部の演奏を本校児童が鑑賞する。  
・参加学年： 4～6年生



(5) けやき台中学校・入学説明(並びに学校見学)会

- ア 日時 1月20日(金) 14:00～16:00  
イ 内容 ・小学校6年生が中学校に行き、学校紹介や部活動の見学を行う。  
・新入生保護者対象の説明会と同時に実施する。

### 3 成果

中学生の母校訪問で行った「清掃ボランティア活動」では、中学生が優しく小学生を導く姿が随所に見られた点がたいへんよかった。また、児童が中学生と直接ふれあうことで、中学校の様子や雰囲気を感じることができ、進学することへの不安を和らげることができていると同時に、部活動や新しい学校生活への意欲や期待をもつ機会となっている。

(1) あいさつ運動について

中学生と一緒にあいさつ運動を行うことにより、地域の連帯意識が高まった。後日には、より意欲的にあいさつをしようとする児童の姿が見られた。

(2) 交流活動について

ボランティア清掃活動や交流会を通して、中学生の素晴らしさや人間的な優しさに触れることができた。

(3) 吹奏楽部出前演奏会、学校見学会について

中学校の生活や部活動の様子がよく分かり、それまで抱いていた不安や疑問を軽減することができた。同時に、中学校進学への興味や関心が高まった。

### 4 今後の課題

- ・交流活動の企画や運営面から具体的な内容や方法等について、工夫・改善を図り、さらにより良い取り組みができるようにする。
- ・小学校と中学校間で行っている諸活動を、地域や保護者との連携まで深め、実りあるものにする。

## 小中連携教育の実践

守谷市立守谷小学校 担当 石塚 行男

### 1 はじめに

本校の児童の多くは、守谷中学校と愛宕中学校に進学する。中学校の生活に漠然とした不安を抱いている児童は多い。中学校での生活にスムーズに移行できるようにするには、中学校の様子を具体的に理解することが大切である。その意味で小中連携教育の果たす役割は大きい。児童・生徒の交流活動を通して、小中学校間の接続の円滑化を図り、「中1ギャップ」の克服に努めたい。

### 2 実践

活動名	実施日・場所	活 動 内 容
守谷中学区小中連絡会	6月13日（月） 守谷中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度6年担任が授業参観。</li> <li>・新入生の現況と申し送り。</li> </ul>
愛宕中学区小中連絡会	6月10日（金） 愛宕中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度6年担任が授業参観。</li> <li>・新入生の現況と申し送り。</li> </ul>
計画訪問授業参観	9月21日（水） 守谷中学校 10月31日（月） 愛宕中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度6年担当が中学校の計画訪問の授業を参観。</li> </ul>
愛宕中学校生徒職場体験学習	1月17日（火） 18日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛宕中学校の生徒3名が本校で職場体験活動を行った。運営委員の児童とともに朝のあいさつ運動に参加。6年生との交流で中学校の様子を説明。</li> </ul>
中学校説明会 (授業参観・部活動見学など)	1月20日（金） 愛宕中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館において生徒会役員の進行で学校紹介等の説明を聞く。</li> <li>・グループに分かれ、生徒会役員による案内で、1年生と2年生の授業参観、部活動見学、施設見学など。</li> </ul>
	1月20日（金） 守谷中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館において保護者と一緒にメディア講習会に参加。生徒会による学校紹介。質疑応答。</li> <li>・グループに分かれ、部活動見学。</li> </ul>

<新入生説明会・教室見学 守谷中学校>



<新入生説明会 愛宕中学校>



### 3 成果と課題

<成果>

- ・今年度初めて愛宕中学校の3名の生徒が本校で職場体験活動を行った。運営委員会の児童と一緒にあいさつ運動を行ったり、6年生と会食したりした。中学校生活の様子について色々とアドバイスをしてくれて、児童にとっては大変参考になった。
- ・新入生説明会に参加し、中学校の様子や先輩の様子を直接見たり感じたりすることで、安心感を持つことができた。特に部活動の見学などを通して、中学校生活への期待をもつことができた。

<課題>

- ・本校児童と中学校生徒との交流の場面は、まだまだ少ない。本校児童は愛宕中学校と守谷中学校の両方に進学するので、両中学と平等にいろいろな機会を設けていかなければならない。そのため、連携しにくい面があることも事実である。共同で取り組む行事の交流だけでなく、授業の面での交流など、より緊密に連携が図れることをめざしたい。

## 小中連携教育の実践について

守谷市立黒内小学校 担当 殿岡 秀一

### 1 はじめに

本校の児童は基本的には守谷中学校へ進学する。そこで、児童と生徒が交流できる場を設定したり、中学校教師と児童が交流できる場を設定したりすることにより、小学校から中学校への移行期の指導をスムーズに行い、児童生徒への教育内容の充実が図られるように、小中学校間の連携・接続の円滑化を図っている。

### 2 実践事業の実際

#### 守谷中学校との小中連携事業

活動名	教科領域	実施日 場 所	活 動 内 容
小中連携事業 準備会		教育課程研修会 の開催される日 (月に1回)	・大野小、黒内小、守谷中の教務主任により情報の交換と小中連携事業の実施計画案を作成する。
守谷中学校校区 小中連絡協議 会		6 / 13 (月) 14:00 ~ 16:30 守谷中学校	・守谷中第1学年の授業参観を行った後、大野小、黒内小の旧6学年関係職員と守谷中第1学年職員による情報交換を行う。
小学生の中学 校生活体験	1・2・ 3年生 の授業 参観	7 / 12 (火) 14:00 ~ 16:30 守谷中学校	・6年生全員が帰りの用意をして、守谷中に移動。 ・1, 2, 3年生の授業をグループで大野小の児童と共に参観する。 ・大野小の児童と共に合同終わりの会を行う。 ・グループに分かれ、守谷中生徒会役員による部活動見学及び施設見学を行う。
守谷中美術部 によるワーク ショップ	特別活 動	11 / 5 (土)  黒内小学校	・本校黒内まつりの体験コーナーの一つとして守中美術部員の指導によるハンカチの絞り染めやマーブリングによるしおり作り等中学生と直接ふれあいながらの活動を行った。
・新入生中学 校説明会 ・メディア講 習会	総合的 な学習 の時間	1 / 20 (金) 13:30 ~ 16:05 守谷中学校	・他小学校と生徒会役員による、守中学校の目標や生活のきまり・学習についての説明会に参加。 ・新入生と保護者共に、メディア講習会に出席する。携帯電話・メール・ネット上の掲示板の利便性や注意点・危険性、具体的な対応策について指導していただいた。

### 小学生の中学校体験の授業参観の様子



黒内まつり「守谷中学校美術部による絞り染めワークショップ」  
人数限定ではあったが、3～6年の参加で例年以上の広い交流ができた。



### 3 おわりに

本年度は中学校訪問が2回実施されたことで、6年生が早くから中学校生活を意識することができたり、中学校の雰囲気を感じたりすることができた。1学期の見学会での体験を生かして学活等でさらに具体的なイメージ化を図り、6年生のまとめと中学校生活に対する目標を持たせる活動をうまくリンクさせて指導することができた。

今後は内容の検討を含めてさらに中学校生活にあこがれるような明るいイメージを持たせられるような取り組みを考えていきたい。

## 小中連携教育の実践

守谷市立御所ヶ丘小学校 担当 市村 正巳

### 1 はじめに

小中連携教育は、児童・生徒の交流活動を通して、小学校から中学校への移行期の指導をスムーズにし、「中1ギャップ」の克服や小中学校間の接続の円滑化を図ることをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、今年度も、児童に今まで以上に夢や希望をもって中学校に進学することを目標に取り組んできた。

### 2 実践

活動名	実施日・場所	活動内容
中学校公開日 見学	6 / 6 終日 御所ヶ丘中学校	・中学校の学校公開日に、6年生の児童の保護者が授業参観し、中学校の様子を見学した。
体験授業 (理科)	6 / 10 御所ヶ丘中学校	・御所ヶ丘中学校に出向き、6年生児童が理科(人工いくらづくり)の授業を体験した。説明を受けた後、実際にグループごとに人工いくらをつくった。いろいろな色の人工いくらをつくり、つくったいくらは容器に入れていただいていた。児童は興味をもって授業に参加できた。中学校での学習への関心もより高まった。
教員相互による 授業参観	6 / 28 御所ヶ丘小学校	・小学校の管理訪問に際し、御所ヶ丘中の先生方(校長・教頭・教務主任)が小学校の授業を参観した。
ごしょまつり	10 / 29 御所ヶ丘小学校	・小学校のごしょまつり(文化祭)に御所ヶ丘中学校の吹奏楽部に依頼し演奏をしてもらった。昨年度より、演奏時間を30分に拡大することで、児童と保護者も、場が盛り上がり楽しく鑑賞することができた。卒業生の演奏する姿を見て、中学校の部活動への興味と関心が高まった。
中学校公開日 見学	11 / 1 終日 御所ヶ丘中学校	・中学校の学校公開日に、小学校の高学年の児童の保護者が授業参観し中学校の様子を見学した。
教員相互による 授業参観	11 / 18 御所ヶ丘中学校	・中学校の市の計画訪問に際し、本校校長が御所ヶ丘中の授業を参観した。
里帰り母校ボ ランティア	11 / 22 御所ヶ丘小学校	・本校卒業生と6年生で母校ボランティア活動を行った。 5時間目は、中学生に二つのグループに分かれてもらい、1年生の体育(縄跳び)と2年生の算数(九九)の授業の手伝いをしてもらった。中学生がとても丁寧に小学生に寄りそって接してくれ、小学生もうれしそうであり、意欲的に取り組み、活動量も高まった。 6時間目は、体育館で6年生が中学校生活について中学生から話を聞いた。その後、中学校生活について中学生に質問し交流は深まった。部活動のことや校則のこと、テストのこと、先生のことなどたくさんの質問が出た。中学生が一生懸命に説明し、それを6年生が興味をもって聴いていた。終始和やかな雰囲気の中で行われた。昨年まで共に生活していた中学生との交流で中学校生活をより身近なものに感じることができた。

中学校新入生保護者説明会	1 / 20 御所ヶ丘中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、インフルエンザ予防対策のため、6年生の保護者のみの参加となった。6年生は、部活動見学等を楽しみにしていたが、参加ができず残念であった。</li> </ul>
--------------	-------------------	--



〔ごしょまつり 10 / 29〕



〔授業体験 6 / 10〕

〔里帰り母校ボランティア 11 / 22〕

### 3 考察

- 出前授業や里帰り母校ボランティアを通して、ふれあう場を設け実践した結果、6年生が中学校への関心や希望をより高めることができた。また、中学校の学校公開日や新入生保護者説明会への参加を通じて、保護者の中学校進学への不安感の軽減にもつながった。
- 小学生にとっては中学生は憧れであり身近な目標である。その中学校の吹奏楽部の演奏を直接ごしょまつり（文化祭）で鑑賞することで、中学生の頼もしい姿を間近にいくつか自分たちもあんな風になりたいという気持ちが育ってきている。
- 里帰り母校ボランティアの活動では、昨年まで一緒に過ごした先輩方の成長した姿を見て、一緒に活動しながら話をすることができたことで、中学校進学に対する不安も軽減した。また、中学生は久しぶりの小学校でお世話になった先生方に会うことで、ほっとしたようでもあった。中学生にとっても、心が和む時間となった。

### 4 課題

- 小中連携事業が単なる交流ではなくて、中1ギャップの軽減や不登校生徒の減少、児童生徒の学ぶ意欲や豊かな心の育成につながっていかなくてはならない。今年度は、新しい試みとして、市の計画訪問に合わせ小中学校間の教員相互の授業参観を行った。授業等の関係でなかなか多くの職員が参観することはできなかった。来年度は、授業参観の方法を検討すると共に、夏休みなどを利用しての職員の交流会等を図り、お互いの学校教育の理解に努めるなど、今後の小中連携事業を深めていき、「中1ギャップ」の克服や小中学校間の接続の円滑化を図っていきたい。

# 小中連携教育の実践

守谷市立郷州小学校 担当 長沼 淑人

## 1 はじめに

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで、最も大きい時期であるとともに、精神的に不安定な時期でもある。そこで、小学校から中学校の間にある段差（ギャップ）を適切なものとし、それを乗り越えるために、小中学校が互いに連携をとった教育を進めることが必要となる。本校では、「愛宕中学校」との教師間の連携、児童生徒の交流活動を通して、小中間の接続の円滑化を図っている。

## 2 主な実践

### (1) 学習や生活のきまりについての情報交換と連携

- ① 愛宕中学校と本校の教務主任会における小中連携の打合せの中で、互いの学校の学習のきまりや生活のきまり、児童生徒の諸問題について、資料や情報を交換し合い、連携のとれた指導を行っていくことを確認した。
- ② 愛宕中第1学年の授業参観を行った後、守谷小、郷州小の旧6学年関係職員と愛宕中1学年職員による情報交換を行った。
- ③ 互いの学校の「教育委員会による訪問指導」の際に、職員を派遣し合い、授業の様子を参観した。

### (2) 本校金管バンド部と愛宕中学校吹奏楽部との合同練習

本校では5、6年生の希望児童からなる金管バンド部を設置し、休み時間や放課後に練習をしながら各学校行事などで活躍している。例年、夏休みは最終週に練習を行い、その中で、愛宕中学校吹奏楽部を招き指導を受けている。本年度も8月26日に合同練習会を実施した。

中学生の中には本校金管バンド部出身の生徒もおり、互いに声掛け合いながら練習する姿はほほえましいものがあった。

また、愛宕中吹奏楽部顧問の先生方からも丁寧な指導をいただいた。それによって、児童は、楽器演奏の技術が向上しただけでなく、活動への意欲を高め、それぞれの目標を持ったり、中学校生活への期待を膨らませたりすることができた。



### (3) 「GOGO 郷州」のハッピー集会における愛宕中学校吹奏楽部との交流

11月の学校行事「GOGO 郷州」では、午前のハッピー集会において、愛宕中学校吹奏楽部に演奏の発表を依頼し、本校金管バンド部との合同演奏を披露してもらった。

また、全校合唱では中学校吹奏楽部の演奏に合わせて「ビリーブ」を歌うことができ、大いに盛り上がった。



### (4) 愛宕中学校生徒の職場体験学習を通して

本年度も昨年度に引き続き、1月に愛宕中学校生徒職場体験の受け入れを行った。愛宕中学校の2名の生徒が、本校で2日間に渡り職場体験活動を実施した。2人の生徒は、低

学年と高学年に所属したが、2日間で全学年を回れるように時間割を組んだことで、多くの児童が中学生と交流を持つことができた。

2名の生徒は、将来学校の先生になりたいという希望を持っている生徒であり、進んで学習の補助に入ったり、児童となわとびと一緒に遊んだりと熱心に取り組んでいた。

(5) 職場体験学習の中での「中学校生活について」のオリエンテーション

愛宕中学生徒に依頼し、職場体験学習の中で、6年生を対象にした「中学校生活」のオリエンテーションを実施してもらった。2名の生徒は、中学校での学習や行事、部活動などについて模造紙による掲示物を準備し、分かりやすく発表してくれた。このような機会が持てたことは、6年生にとっては、進学への不安が軽減され、中学校生活への期待感を深めることができた。



中学生が作成してくれたものは6年生の教室前廊下に掲示している。

(6) その他

【幼小連携】

隣接する「みずき野幼稚園」とは、日常的にも交流がある。例年実施している幼稚園児による「ハロウィンパレード」、幼稚園年長児による「教室見学」等を通し交流を深めた。

○ ハロウィンパレード<10月>

幼稚園の行事として、ハロウィンパレードに仮装した園児たちが、本校の昼休みに、北門より入場し、グラウンドをパレードしながら南門へと向かって行った。かわいらしいパレードの様子を本校児童や職員が見学し、拍手を贈りながら見送った。



○ 1年教室の見学<2月>

みずき野幼稚園の年長児童が来校し、本校1年生の生活科、4年生の理科の実験、2年生のなわとび記録会を見学した。本校1年児童たちは、幼稚園児の姿を眺めたり、見られたりすることで、自分たちの成長を実感できた。

見学後は、特別教室を中心に学校探検を行った。



3 今後の課題

- (1) 行事的な連携だけでなく、日常的な活動を通しての連携を進めていきたい。
- (2) 確かな学力の向上を目指した連携事業の施策を工夫し進める。
- (3) 学習や生活のきまり等における情報交換を一層推進し、9年間の指導の一貫性を図る。

## 小中連携教育の推進

守谷市立松前台小学校 担当 川崎 健男

### 1 はじめに

小学校を卒業し、中学校に進学すると不登校が急増する。いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる現象である。小学校時代とは、学習環境や内容、生活が大きく変わるためうまく対応できなくなる。小学校時代に不登校の予備軍だった児童たちが環境の変化によって一気に不登校者に転じているのかもしれない。こうした傾向に歯止めをかけ、小学校から中学校へ滑らかな接続が図れるよう、児童・生徒の交流及び教職員の連携・情報交換、教育課程の編制の工夫などが必要とされている。

### 2 実践

活動名	実施日	場所	活動内容
小中連携教育事業準備	4月15日	松前台小学校	御所ヶ丘中、御所ヶ丘小、大井沢小、松前台小の行事計画の確認と情報交換を行い、小中連携事業の実施計画案を作成した。(4校教務主任) また、毎月行われる教育課程研修会において4校の情報交換を行った。
田植え 稲刈り	5月19日 9月26日	立沢里山	「里山を守る会」の方々のご協力をいただき、大井沢小、御所ヶ丘小、本校の5年生が立沢里山の水田において田植えを行った。泥に足を取られながら苗を植える作業を通して、児童は米作りの大変さを感じ取ることができた。また、稲刈りの作業を通して、収穫の喜びを十分に味わうことができた。この体験は、3校の児童が御所ヶ丘中学校に進学した後も、貴重な「共通体験」として豊かな心をはぐくむ礎になると考えられる。
御所ヶ丘中学校教諭による出前授業 (数学科)	6月13日 4校時	松前台小学校	御所ヶ丘中学校数学科教諭である巻野正先生により、本校6年生を対象に「三角形の重心」の授業を行っていただいた。学習の終盤では三角形のコマを作ることで重心についての理解を深めることができた。児童の感想には、新しい知識を吸収することの喜びや、中学校での学習に対する期待感が表されていた。
御所ヶ丘中学校吹奏楽部による演奏会	6月23日 3校時	松前台小学校	市総体開催に合わせて、御所ヶ丘中学校吹奏楽部の生徒が本校を訪問してくれた。吹奏楽部の演奏を全校児童で聞いた。ディズニーメドレーやたくさんの楽器紹介にとってもうれしそうであった。
御所ヶ丘中学校教諭による出前授業 (英語科)	10月27日 2校時	松前台小学校	御所ヶ丘中学校の加藤升校長先生より話をいただくとともに、英語教諭である鈴木優子先生により、本校6年生を対象に授業を行っていただいた。児童は、先生の分かりやすく丁寧な説明を聞きながら、中学校での英語の学習の様子をスクリーンで見たり、簡単な英会話を楽しんだりした。 児童の感想を読むと、英語をコミュニケーションのツールとして生かして、友達との輪をさらに広げていくことの大切さを感じ取ったようである。

母校ボランティア	11月22日 5・6校時	松前台 小学校	6年生児童と、中学1年生（本校卒業）が1年生と2年生の授業のミニ先生となった。1年生の体育ではキャッチボールや大縄・短縄の跳び方を教えたり、一緒にやったりした。2年生の算数では、暗唱したかけ算を聞いてあげたり、問題を出したりした。また、6年生と中学生で情報交換会をもった。本校6年生の児童は、目標となる中学生の姿を確かめることができた。
入学説明会及び部活動見学	1月20日	御所ヶ 丘中学校	今年度はインフルエンザの流行により保護者のみの参加であった。



5年 田植え



6年 出前授業（数学科）



6年 出前授業（英語科）



全校 吹奏楽部による演奏会



1・6年 母校ボランティア



2・6年 母校ボランティア

### 3 考察

小中連携推進事業の様々な活動を通して、児童は中学校生活に対する不安を期待に変えた。2人の先生の出前授業において、学習内容の広がりを感じ取ることができ、今行っている学習への意欲を高めた。また、4校が連携を図って行う体験は、一人一人の児童の心に強く残ったようである。これらの体験は、互いを思いやり、たくましく生きる力の礎となることと思う。これからも、進んで学び、よりよく生きようとする豊かな心をはぐくむために、小中の連携、情報交換を図り、交流活動を深めていきたい。

## 小中連携教育の実践

守谷市立松ヶ丘小学校 担当 皆川 彰

### 1 小中連携のねらい

本校では「豊かな心をもち、自ら課題をみつけて学習し、健康でたくましく生きる子どもを育てる」の学校教育目標のもと、中学校について児童や小学校保護者が知ることにより、保護者と小学生の中学校生活に対する不安を取り除き、夢と希望にあふれる進学を実現するため小中連携の交流活動が進められてきている。この活動を通して児童・生徒が交流活動を「継続的に」行うことで、児童・生徒に生きる力を育むと共に、確かな学力を身につけることを目標に取り組んできた。

### 2 実践計画

月 日	内 容	対象者・協力者
5月19日	平成22年度小中連携についての打合せ	けやき台中担当者
6月20日	あいさつ運動	けやき台中生徒会 本校保護者
9月 8日	あいさつ運動反省	けやき台中担当者
10月17日	あいさつ運動打合せ	けやき台中担当者
10月31日	あいさつ運動	けやき台中生徒会
11月 5日	吹奏学部鑑賞会	本校保護者
11月12日	母校ボランティア	けやき台中1年生 本校6年生
11月17日	母校ボランティア、吹奏楽部鑑賞会打合せ	けやき台中担当者
1月17日	中学校説明会および部活動見学会打合せ	けやき台中担当者
1月20日	中学校説明会および部活動見学会	けやき台中学校

### 3 実践例

#### (1) あいさつ運動

(けやき台中学校との交流)

本校正門 7時50分から8時10分本校では、校長、職員、5・6年担当児童によるあいさつ運動を毎朝行っている。その中で、6月、10月に「さわやかマナーキャンペーン」として協力保護者、けやき台中学校の生徒会役員、本校児童、本校職員が中心になってあいさつ運動を行った。



保護者、中学生とのあいさつ運動

#### (2) 吹奏楽部鑑賞会

今年度も、松ヶ丘まつりにけやき台中学校の吹奏楽部に学校にきていただき演奏を鑑賞した。全校児童が中学生の演奏を聴き、大変貴重な経験をすることができた。また、楽器をさわらせていただいたり、指揮をさせていただくこともできた。中学校のすばらしい演奏に特に6年は中学校への進学が身近に感じたようである。



けやき台中吹奏楽部の演奏

### (3) 母校ボランティア

本校を卒業した、けやき台中学校1年生が来校して、本校6年生とボランティア活動を行った。また、ボランティア活動の後に昨年卒業した中学1年生から実際の中学校の様子を聞いたり、質問をすることで中学校をより身近に感じる良い機会であった。



中学生との懇談

### (4) 中学校説明会

及び部活動見学会  
新入生保護者説明会と同時に、入学予定の6年生に対して、けやき台中学校の生徒会のみなさんから中学校の生活の様子などについて紹介していただいた。また、説明後に部活動見学を行った。部活動を見学して、自分たちが入学してからどの部活動に参加しようか一人一人が考える機会となった。



けやき台中学校説明会

## 4 成果と課題

### (1) 成果

小中連携推進事業では、中学校の生徒会役員と一しょにあいさつ運動などを行うことが定着してきている。児童が中学校を身近に感じるとともに、地域の方々にも積極的にあいさつをしていこうとする意欲付けになってきている。中学生との交流が楽しみになっているようである

中学校の新入生説明会、母校ボランティアでの交流活動を通して、6年生と中学生の心の絆を深め、夢と希望をもって中学進学を目指す活動になった。

交流活動全体を通して、卒業生の姿を知ることができ「中学校が楽しみ」「中学校の授業を受けたい」「部活動が楽しみ」など中学校への興味・関心が高まったのではないかと考える。今後も学ぶ意欲、豊かな心を育てることができるように、さらに交流活動を推進していきたい。

### (2) 課題

中学校との連携も毎年行い、交流活動は定着してきている。しかし、マンネリ化にならないように、情報を交換したりしながら新しい試みをしていくことも大切である。今年度は中学校の授業を参観できたり、中学校の先生が授業を参観に着たりする機会ができたので、今後も続けられるようにしていきたい。

ホームページなどを利用して保護者や地域の方々への情報発信を今まで以上に進めていきながら、地域に開かれた学校をより一層進めていきたい。

# 小中連携教育の実践

守谷市立守谷中学校 担当 荒井 弘勝

## 1 はじめに

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで、最も大きな時期であるとともに、精神的に不安定な時期でもある。中学校における「中1ギャップ」は依然として問題視されており、多くの中学校が小中連携に本格的に取り組んでいる。そこで、小学校から中学校の間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、小中学校が互いに連携をとった教育を進めることが重要となる。小中連携教育を推進することで、「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を一層はぐくむことができると考える。児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し合い、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが基本となる。

児童生徒が共に活動し、体験を共有する機会を意図的、計画的につくることによって児童生徒の人間関係づくりを促すことが重要である。小中連携では、学力向上の観点から小中9年間の学びの連続性を踏まえた確かな学力を身につけさせることや、生徒指導の立場から、小中学校間の交流を深めることで中学校入学への不安を解消することが求められる。このような交流を通して、豊かな人間性を身に付けさせるものである。さらに教職員間においても、小・中学校の職員が相互の取組を理解し、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが重要である。

そこで、小中連携の意義を踏まえて特色ある教育課程の編成と創意と活力に満ちた学校づくりを推進するため、以下のような取り組みを進めた。

## 2 実践

### (1) 校区小学校（大野小学校、黒内小学校）との連携について

#### ア 小中連絡会の実施：平成23年6月13日（月）

特別支援職員含む校区の各小学校旧第6学年関係職員を本校に招いての小中連絡協議会を実施した。中学校に入学して一ヶ月を過ぎてからの様子について小学校の各先生方から中学生になったかつての卒業生の様子を参観し、連絡協議会を行った。この時期に情報交換をする事は、新入生の生徒理解を深めることに有効であった。

#### イ 小中連携交流会の実施：平成23年7月12日（火）

大野小学校と、黒内小学校の全児童を対象に守谷中学校との小中連携交流会を実施した。日常的な中学校生活を知るため、通常の授業参観を実施した。来校した校区児童には、中学校訪問集会の運営させることで自らが交流会に積極的に関わる意識を高める配慮をした。授業参観は各教室を班ごとにまわり、全ての授業参観を行うことができた。当日は、2学年において、高校の先生方を招いての高校説明会を実施していた。キャリア教育の観点から中学生の実態を知るためには小学生にも参観させたことは有意義であった。部活動見学は、生徒会役員が先導して児童をすべての部活動に案内した。部活動の主将・部長は小学生からの質問に適宜応じていた。中学校での運動部や文化部の本格的な活動に触れ、興味深く参観する事ができていた。児童は、体験終了後は小中連携交流会に参加しての感想を発表し合うことで、他の児童の考えを知るとともに、中学校進学への期待を膨らませていたようであった。



ウ 守谷中学校吹奏楽部による大野小学校出張演奏：平成 23 年 11 月 3 日（木）

毎年恒例となっている出張演奏を大野小学校において本年度も実施した。小学生たちは吹奏楽部の演奏とパフォーマンスの迫力に感動していた。さらに、上級生の指示に対して機敏に反応し、協力して活動を行う中学生の姿に多くの小学生たちが感銘を受けていた。普段目にする事のない中学生の活動の様子を目の当たりにして、演奏の技術のみならず、部活動としての関わりの在り方まで知る事ができたようである。生徒たちにとっても、自分たちの演奏を披露できたことは、上級生としての自覚を深める有意義な手立てとなった。



エ 守谷中学校美術部による黒内まつりワークショップ：平成 23 年 11 月 5 日（土）

今年度初の試みとして、黒内まつりに関して美術活動によるワークショップを企画立案した。中学生にとっては積極的に小学生たちと関わろうとする姿が見られ、普段の活動を小学生と交流を深めながら自信をもって発表できる活動に充実感を感じていた。児童にとっては、受動的になりがちな連携事業であるが、自ら参加体験し中学生と共に作品制作を行うことができたことで中学生をより身近に感じていたようである。このような、児童参加型の連携を今後も推進していく必要があると考える。



オ 「守谷中学校区家庭学習のてびき」の取り組みについて

本年度守谷中学校では、家庭学習の習慣を身に付けさせることで、基礎学力の向上を図るべく、「家庭学習のてびき」を印刷製本し全生徒対象に配付した。中学生として身に付けるべき家庭学習や授業の学びの在り方を具体的に示すものであるが、この内容を校区小学校と共有化することで、家庭学習の在り方を校区全体で統一を図り、義務教育の9年間を見通して実践することをねらいとしている。家庭学習の手引きは、ホームページにPDFで掲載することで誰もがダウンロードする事ができるようにした事に加え、次年度中学校説明会の資料にも掲載することで、学力向上の観点から円滑な接続ができるよう配慮した。

3 成果と課題

小中一貫教育が叫ばれる中、小中連携はますますその重要性を増している。教師の立場から、生徒指導面での小中連携や学習のつながりを意識した教育課程の必要性は感じているものの、完全な形で互いの連携を具現化するまでには至っていないと捉えるのが現状であろう。物理的な事由からも小学校と中学校の教職員間の交流を十分とることができず、小中学校の接点にいる児童生徒のとりえ方や指導に対する教師間の共通認識を深めるにはまだ課題がある。児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し合い、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが重要である。そして、それぞれの学校の現状を生かした具体的な方法によって連携し、9年間を見通した教育課程を実践可能な範囲で編成することが望まれる。校区小学校との共通認識を深める事を前提として、小学生が受動的に取り組む小中連携ではなく、能動的に参加できる連携の在り方や、学力向上の観点から中1ギャップの解消を図ろうとする取り組みなどの推進が必要となる。特に、家庭学習のてびきを柱とした、校区小中学校が連携しての取り組みについては、家庭学習の在り方だけでなく、学校での学びの在り方を統一して押さえることで確かな学力の向上全般を捉え、連携を深めて行きたい課題と考えている。

## 小中（含幼保）連携教育の実践

守谷市立愛宕中学校 担当 内田 有一

### 1 小中連絡協議会

6月10日（金）及び平成24年3月22日（木）の2回実施した。

第1回目の連絡会では、守谷小・郷州小の旧担任が1年生の授業参観（5校時）を行い、6校時に協議会を行った。

協議会では、1年生の担任より、指導上気になる点について、特に小学校時における発達と行動の様子、家庭環境の様子について詳細な質疑応答があった。また小学校の旧担任からは、中学生になって成長した生徒の様子を理解していただき、小学校における今後の指導に有益である旨の言葉をいただいた。

第2回目では、新入生に関する情報を小中の教員で共有した。

来年度の新入生は、郷州小において学力の2極化が顕著であり、中1ギャップによる学習の落ちこぼれが予想される。そこで守谷小、郷州小と連携し、事前に学力診断テストの結果を知らせていただき特に数学の少人数授業や取り出しによる個別指導の体制を確立し、入学直後から対応できるようにした。

また、家庭環境が厳しいケースも見られ、中学校入学前にその把握ができたことは、有益であった。

### 2 保育園実習Ⅰ（まつやま保育園）

10月26日（水）、27日（金）に保育実習を行った。

家庭科における保育の学習で、体験を基に子育てについて考え、レポートにまとめた。幼児に対して生徒はみな触れあう喜びを感じたことがレポートから伺われた。

11月14日（月）には保育実習を体験した生徒が自作したクリスマスカードを保育所に届けた。1月13日（金）には園児が愛宕を訪れ、お礼のプレゼントを届けるという交流が行われた。

終了後、将来保育関係の仕事をしたいという生徒や小さい子どもがもつすばらしさを理解した生徒が多かったことは成果である。

また、7月16日（土）に希望生徒11名が保育園の夏祭りボランティアに参加した。ゲームコーナーの運営を任せられ、ゲームの企画や景品作りを行った。



### 3 器楽練習会（愛宕中学校吹奏楽部）

郷州小学校金管クラブと愛宕中吹奏楽部の練習会を平成23年8月26日（金）に郷州小学校において実施した。

中学生が普段行っている自主的なパート練習の力を活用し、小学生に金管楽器の基礎練習を指導した。事前に小学生に対する接し方を指導したが、当日はそれを上回る態度で接することができたことに、生徒の能力の高さを感じた。

小中のこうした交流は、中学生にとっては年下の子どものために何ができるかを考え、実行させるよい機会である。小学生にとっては、中学校へのあこがれとなる活動であることが確認できた。



## 5 学校行事への案内

### (1) 愛宕中学校体育祭

9月10日(土)に実施した体育祭では、愛宕中学校区の小学生に参加を呼びかけるためのポスターを配布した。借り人競争では、何人もの小学生が協力して競技に参加してくれた。

### (2) 愛宕中学校歌詠祭(文化祭)

10月22日(土)に実施した文化祭では、愛宕中学校区の小学生が保護者とともに参観した。

中学生による混声合唱を聴き、あこがれをもつことは、入学後の行事に対する動機付けとして大変有効であると考えられる。

## 6 GOGO 郷州ハッピー集会への参加

11月5日(土)に郷州小学校祭(GOGO 郷州)に愛宕中学校吹奏楽部が参加し、演奏を披露したり、合同演奏を行った。

この交流は6年目になり、小学生も楽しみにしているため、生徒も児童向けのプログラムや司会を工夫する姿が見られた。



## 7 小中連携で学力を向上する

10月31日(月)計画訪問を郷州小学校職員が参観した。また郷州小計画訪問を本校の職員が参加した。

小学校の学習のきまりを中学校の職員が踏まえて、学習のきまりを作成した。小学校では発表の仕方がいくつも書式化されており、中学校においても言語活動において判断と理由を述べるよう指導することが共通理解された。

## 8 新入生・保護者説明会

1月20日(金)本校において、来年度の本校入学予定者の新入生と保護者を対象に説明会を実施した。

生徒会役員と学級委員が小学生を対象に、中学校の学習や生活等について紹介をしたり、1,2年生の授業参観をした。また、部活動の様子を参観し、中学校入学後の課外活動に対して動機付けができたと思われる。

本年度の反省点としては以下の点が上げられる。

- ・小学生にとってはこの時期、私立中学校に入学する生徒が参加しない。
- ・中学校の担当職員の数が少ないため、運営が厳しい局面がみられた。

そこで教務主任会における小中連携協議のなかで、以下の改善案がまとまった。

- ・1学期もしくは2学期に児童だけによる「中学校探検」の授業を組み、全ての児童が参加するようにする。
- ・1月は保護者説明会に徹して、入学に関わる手続きや教育方針の説明を行う



## 9 今後の展望

東日本大震災以降の防災訓練は、自分で考え行動するものになるであろう。その中で小中連携した防災訓練のあり方や引き取り訓練の合同開催が今後の課題である。

また学習面では、指導方法の連携や接続が9年間の義務教育を見通して行えるよう連携を深めていきたい。

# 小中連携教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校 担当 巻野 正

## 1 はじめに

現在の形の小中連携教育をはじめて9年目となった。活動も定着し、日常の教育活動の感覚で実践がなされている。本年度は、県内でも小中一貫教育の実践が行われて、様々な方向性が模索されている。その中で、今までの実践を継続しつつも改善点を明らかにし、「中一ギャップの克服」をより意識した実践を行うようにしてきた。

## 2 実践のねらい

- 児童・生徒の交流活動、教職員の交流活動を「継続的に」行うことを通して、児童・生徒の学習に対する興味・関心を高め、学ぶ意欲を育てるとともに、豊かな心をはぐくむ。
- 交流活動を通して、中学校（生徒の様子、授業の様子、施設、中学校の先生など）について児童や小学校保護者が知ることで、保護者と小学生の中学校生活に対する不安を取り除き、夢と希望にあふれる進学を実現する。
- 「中一ギャップ」の克服を目指し、交流活動を通して学びの連続性を保ちつつ小中の円滑な移行を実現する。

## 3 実践のポイント

- 「交流の継続性」を重視した活動内容・交流方法の検討
  - ・ 小学校3校の地理的条件（1校が隣接、2校が遠距離）を考慮した実践
  - ・ 連携のために特別に年間のカリキュラムを組み直したり、大きな負担を児童・生徒・教職員に強いたりすることのない実践
  - ・ 同じ実践をより合理的・効率的に行う工夫
- 学ぶ意欲を高める交流活動の在り方
  - ・ 中学校教師による出前授業
  - ・ 中学生の作品等の学習成果の活用（総合学習レポート、美術作品の展示）
- 豊かな心をはぐくむ交流活動の在り方
  - ・ 小・中合同授業（吹奏楽部の演奏）
  - ・ 母校ボランティア活動
- 夢と希望にあふれる進学を実現する交流活動の在り方
  - ・ 中学校教師による出前授業
  - ・ 小学校保護者への授業公開
  - ・ 学校説明会、部活動見学会
- 「中一ギャップの克服」の実現に向けた活動内容・交流方法の検討
  - ・ 母校ボランティアの際に中学1年生が小学6年生との対話の時間をもち、部活動や学校の様子を紹介したり質問に答えたりすることで、中学校生活への不安の除去と期待を高めるようにする。

## 4 活動の概要

- 中学校教師による出前授業
  - ・ 数学科の出前授業（大井沢小）



○ 中学校での授業体験

- ・理科の授業体験（本校にて：御所ヶ丘小）



- 吹奏楽部の小学校での演奏会（松前台小）



○ 母校ボランティア

- ・学習ボランティア（御所ヶ丘小）
- ・長縄の活動（松前台小）



- ・中学校紹介（大井沢小）



5 成果

○ 学ぶ意欲を高める交流活動に関して

- ・中学校教師による出前授業（算数・数学科，英語科，理科），中学生の総合学習レポートの展示，中学生の作品（美術）の展示を無理なく実施できた。例年行っている活動であるので，小学校側でも趣旨を共通理解できておりスムーズな活動が展開された。本年度は，理科の体験授業が小学校の要望であったので，理科教員の協力のもと実施することができた。
- ・出前授業では，専門性を生かした授業，機器を駆使した授業の実践により，中学校の授業の様子がわかり中学校進学への不安感が少し解消できた。

○ 豊かな心をはぐくむ交流活動に関して

- ・吹奏楽部による小学校での演奏活動，母校ボランティア活動が無理なく実施できた。
- ・母校ボランティアでは，学習ボランティア，中学校紹介などの活動を実施した。放射線の影響で，奉仕作業的なものは実施できなかったが，大縄を一緒にしたり，かけ算九九を聞いてあげたりする学習ボランティアを実施するなど，いつもとは違った交流活動が実施できた。

○ 夢と希望にあふれる進学を実現する交流活動に関して

- ・年3回の学校公開日には小学校保護者へも案内を出し，中学校の様子を見てもらう機会を設置した。毎回数人ではあるが参観をしてくださり，交流の継続が大切であることを実感した。今後も継続していきたい。新入生説明会はインフルエンザの流行のため本年度は保護者のみの説明会となった。

6 今後の課題

本校へ来校しての授業体験を充実し，内容のみならず，学校の様子にも慣れてもらう機会が増やせると良いと思う。また，中学校で実践している学び合いの学習の連続性や小学校と連携した家庭学習のあり方についても少し着手したが，連携には至らないでいる。学力向上のためにも少しずつ前進していきたい。

## 小中連携教育の実践

守谷市立けやき台中学校 担当 増田 徹

### 1 はじめに

本校は高野小学校と松ヶ丘小学校の2校から新入生が入学してくる。児童・生徒の「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を育むため、また、義務教育学校段階間の接続・連携によって「中一ギャップ」の解消をねらい本年度も小中連携事業を実施した。小学生が中学校に対して抱く不安を取り除き、期待とやる気を膨らませることが「連携」の大きな目的の1つである。小学生にとって中学生を見て「あんな先輩になりたい」という願いを持てるようになる機会であれば最高である。今後も可能な限り、様々な工夫した活動を通して、多くの児童が夢と希望を胸に中学校に入学してくれることを期待して継続していきたい。

### 2 実践

#### (1) 小中合同あいさつ運動

	第1回小中合同あいさつ運動	第2回小中合同あいさつ運動
日時	6月20日(月) 7:50~8:10	10月31日(月) 7:50~8:10
場所	高野小学校(プール側門付近) 松ヶ丘小学校(正門付近)	高野小学校(プール側門付近) 松ヶ丘小学校(正門付近)
参加者	小学校代表児童 職員 中学校生徒会役員, 中央委員, 職員	小学校代表児童 職員 中学校生徒会役員, 中央委員, 職員
内容	生徒の代表者と職員が、高野小学校、松ヶ丘小学校に出向き、小学生と一緒に登校時にあいさつ運動を行った。	



#### (2) 吹奏楽部演奏会

	高野小学校	松ヶ丘小学校
日時	7月9日(金) 14:40~15:30	11月5日(土) 10:30~11:30
場所	高野小体育館	松ヶ丘小学校体育館
参加者	高野小4, 5, 6年生 保護者 吹奏楽部生徒, 職員	松ヶ丘小全校児童 保護者 吹奏楽部生徒, 職員
内容	吹奏楽部の生徒が高野小を訪問し約1時間の演奏を発表した。発表の途中で小学生も参加し、楽しい音楽を通しての交流ができた。	松ヶ丘小の「松小まつり」のプログラムの中で吹奏楽部の演奏を発表した。児童参加のある楽しい内容となった。



(3) 母校ボランティア

日時	11月17日(木) 14:00～15:30	
場所	高野小学校	松ヶ丘小学校
参加者	小学校：6年生 中学校：1年生	小学校：6年生 中学校：1年生
内容	中学1年生が出身小学校へ出向き、小学校6年生と一緒にボランティア活動(清掃など)を行い交流する。また、中学校の様子をグループごとに発表したり、小学生からの質問に答えるなど交流会を行った。	

(4) 小中連絡会

日時	6月27日(月) 13:30～15:30	
場所	けやき台中学校 教室及び会議室	
参加者	高野小学校, 松ヶ丘小学校: 旧6年担任, 生徒指導担当 けやき台中学校1年担当職員	
内容	小学校職員による中学校授業参観, 小中の職員による生徒指導上の情報交換を行った。中学校での実際の姿を見ていただき, また話し合いの中で学習や生活の様子を伝え, 卒業時の引き継ぎ事項について再確認ができ, 意義ある連絡会ができた。	

(5) 新入生学校見学・説明会

日時	1月20日(金)	
場所	けやき台中学校体育館	
参加者	高野小学校, 松ヶ丘小学校: 6年生, 担当職員 けやき台中学校: 生徒会本部役員・中央委員, 吹奏楽部員, 2年代表生徒 1年1組生徒, 担当職員	
内容	生徒会役員の司会進行による見学・説明会を開催。第一部として学校の様子を説明した。2年生による学校の特色や行事などの説明, 1年1組生徒による合唱, 吹奏楽部の演奏を行った。第二部では生徒会役員の案内による部活動見学を予定していたが悪天候のため実施できず, 部活動紹介に変更して実施した。全ての部活動が新入生の前で活動の様子を紹介した。	

3 考察と課題

計画された事業について小学校の協力を得てすべて実施できた。また、本年は各校の訪問時の授業参観も実施した。しかし、内容の工夫や改善が必要と考える。年度末に活動の振り返りを行い、内容の吟味と改善方策を講じ、ねらいに即した充実した内容にできるよう努力したい。

そのためには発想の転換をし、職員間の交流活動や生徒指導、学習指導の約束事の確認、また、空き時間を活用した小学校との交流見学など、具体的に改善していきたい。